〔第三種郵便物認可〕　昭和十一年三月二十七日　磐城新聞　〔金曜日〕　第四千五百八十三號　〔一〕

幼稚園を正しく認識して下さい

（三）

内山憲堂

ですから、家庭に於ける子供と、社會へ出ての——友達と——子供とは大變異る場合が多いのです。一旦家庭に於ては日數が多く伸ばす可きは伸ばして行つて元氣で亂暴すぎる位ですが、一歩幼稚園へ入つたら一言も喋らない下隅の方に小さくなつてゐると云ふやうなことがあります。又家庭が嚴格すぎてなどに促はれず。實質的に無口で、靜かで、おとなしく、いくぢがない程なのが幼稚園では惡戯大將で、喧嘩や亂暴の親玉で手もつけられないと云ふ子供もあります、こゝに家庭に於ける個人保育と、幼稚園に於ける社會的保育との生活形態の差が幼兒の生活の上に影響するのであります

四、家庭幼稚園の共同

いづれは社會へ出なければならない幼兒であります立派な社會人たらしめることは必要であることは勿論であります。それがために家庭と幼稚園の連絡が一番必要です。否連絡と云ふ言葉以上に共同と云ふ言葉を使ひたいです

申し譯的な『母の會』だけで滿足せずあらゆる方法的な愛を受けて、來た子供は家庭に於ては日數が多く伸ばす可きは伸ばして行つてこそ始めて、幼稚園の使が、一歩幼稚園へ入つたら一言も喋らない下隅の方に小さくなつてゐると云ふやうなことがあります。又家庭が嚴格すぎてなどに促はれず。實質的に無口で、靜かで、おとなしく、いくぢがない程なのが幼稚園では惡戯大將で、喧嘩や亂暴の親玉で手もつけられないと云ふ子供もあります、こゝに家庭に於ける個人保育と、幼稚園に於ける社會的保育との生活形態の差が幼兒の生活の上に影響するのであります

四、家庭幼稚園の共同

いづれは社會へ出なければならない幼兒であります立派な社會人たらしめることは必要であることは勿論であります。それがために家庭と幼稚園の連絡が一番必要です。否連絡と云ふ言葉以上に共同と云ふ言葉を使ひたいです

に手をにぎり合つて進まなければならないと思ひます

（完）

二月廿六日紀事

珠雲　小野務平

慷慨悲歌意奉祈
弄兵漫擬掃妖塵
青天霹靂傳凶事
震駭都門百萬氏

雪

櫻草

大吹雪はや戸をおろし
眠る町
大吹雪更けて酒舖を起す聲
大吹雪ラッセルさへも
埋めしてふ
雪ばれや馬そりならぶ
街道筋
雪かきの人夫等唄ふて
居たりけり

人びと

ふぼし生

強い人間は幸福だ
何故ならば　彼には
如何なる困難も迫害も打
破つて
雄々しく人生の荒浪を
乘越えて行く
勇氣と意志を持つて居る
から
弱い人間も亦幸福だ
自分の弱さを自覺して
強いて無理な事を望まず
忍從の世界の身に甘んじて
安泰な生活を送る事が出
來るから

傷心

吉川尙子

○寢ながら飛行機のばく音ききをれば赤き信號燈は目のうちに見ゆ
○來客の商賣談に壹食さへ忘れて時計は二時を過ぎたり
○去年植ゑし庭の松樹の枯れにけり心にかけし姉にいまさず
○年かへて別れたる日はめぐれどもこほしき父にあふよしもなき
○面ざしのまさしく似たる人にあひて父こほしさに涙こぼしぬ

黄金魔刀

（109）

高桑義生作
樋口悦也畫

紫巾黨（六）

石部から水口の城下へは三里の道、途中に三雲の宿がある

わざと本街道を避けて三雲の山道を水口に下りる旅人一人、うら若い女、菅笠の紅緒が、なまめかしくもあれば痛々しくも見えるので

先の宿からつけて來たのだらう、旅にはつきもの惡怨籠屋、から怨籠をゆさぶりながら、潮時を見はからつて追ひすがつた

『おう、ねえちやん』

『ねねや……』

かたみに呼びかけたが旅の娘は聞えないふりで——しかし、さすが小氣味の惡い浮足になる

冬の日脚の短かさ、七つにはまだ間もあらうといふのに、どんより曇つた時雨空、今にも暮れるかと思ふ心細さ

『ねえや、聞こえねねのかねねやつたら、ねえや、まあちよつと待つて見るものだ、話は聞いて見るものだ！』

『さつ、駄賃なんぞはどうでもいゝ。袖すり合ふも他生の緣とやらだ』

『でも……』

と娘は觀念したらしく

『駄賃は差上げます。よいりとする寬之助——彼が江戸に行くといふ言葉をあてにはるゝと志した、人生への航海の第一歩であつたお染は心に神佛を念じてゐる。惡者は、思ひがけなの物を拾値にして、半甲脚絆菅笠、一人前の旅姿、無事にここまでは來たのではあつたが——

この世の中にたゞ一つ頼賃冥利から怨籠をゆさぶつて歸るより、あんたのやうな別嬪をお乘せ申して行きてもござゐますまいやと思ふのでございます——

聲にすぐ耳元で——

毒氣をかけられたやうになくも怨籠の中。そのなめ玉を、なぐさんだ上、金に

旅の娘は身ぶるひをした立らかな襟脚をのぞき込んでしようといふ魂膽、間違ひ

身内をぞく〳〵させた怨籠なしだ

屋二人、にやりと顏を見合せて怨籠を上げた

怨籠の中の處女、深窓から人生への荒浪に漂ひ出たお染であつた。身ひとつで稻荷山の別莊をのがれて、

『おツと合點、仰しやるまでもござゐますまいや』

すばやく怨籠をおろす——

娘は笠も取らずに、是非〳〵掌の中にころげ込んだ上

『てゝゝゝ……つんぼぢやあるめえし、何も取つて食はでもいゝ。袖すり合ふも他生の緣とやらだ』

『でも……』

と娘は觀念したらしく

『駄賃は差上げます。よいりとする寬之助——彼が江戸に行くといふ言葉をあてにはるゝと志した、人生への航海の第一歩であつたお染は心に神佛を念じてゐる。惡者は、思ひがけなの物を拾値にして、半甲脚絆菅笠、一人前の旅姿、無事にここまでは來たのではあつたが——

この世の中にたゞ一つ頼賃冥利から怨籠をゆさぶつて歸るより、あんたのやうな別嬪をお乘せ申して行きてもござゐますまいやと思ふのでございます——

聲にすぐ耳元で——

毒氣をかけられたやうになくも怨籠の中。そのなめ玉を、なぐさんだ上、金に

旅の娘は身ぶるひをした立らかな襟脚をのぞき込んでしようといふ魂膽、間違ひ

身内をぞく〳〵させた怨籠なしだ

屋二人、にやりと顏を見合せて怨籠を上げた

怨籠の中の處女、深窓から人生への荒浪に漂ひ出たお染であつた。身ひとつで稻荷山の別莊をのがれて、

『おツと合點、仰しやるまでもござゐますまいや』

すばやく怨籠をおろす——

娘は笠も取らずに、是非〳〵掌の中にころげ込んだ上

かごには乘つて見るものまそれから東へ——江戸にむかめ、だらけの足を曳き摺つつて一人旅、思ひ切つた事て俺あもうずんとお痛はしであつた。路銀は多分頭髮くてならねえのさ』

『結構です』

『ほツ、見かけに寄らねわ強情な娘さんだ。尤もその年で一人旅、なか〳〵氣強い御氣性らしいが、いけませんせ。御存じねえだらうが、水口の御城下はきびしい、女の一人旅は何處の宿でも、決して泊めねわ事になつてゐる。詮議を受けるのは必定なんだ』

『それが、俺達土地の者が口をきいてやれば、そこはまた何とでも融通がきく。悪い事はいひません。人の親切を無にするものぢやねえ』

旅の娘は振り返つた

夕

富慕子生

うたもよまず
ししよんぼりと
紅き夕陽の光薄れゆく
はるかの高嶺に心はあこがれ
ふと　聲有り……
心我に來て
かへり見れど更に聲なく
夕影そのみ寄せに來る
うつりゆく
現身の
光消えゆく夕
いづくより來るか此の寂寞

夕

富慕子生

夕暮の雲
くろずみて
一つ星高嶺の邊りにまばたくも
（一つ星冷たくまばたくも）
いとど胸を締むる寂しさ
おもひしづみつゝ
窓によりて
其のかみの昔の日をしのび
來る日を夢にみぬ
夕
寂しさしる
人の子の耐へ難きひとゝき
そして憶ひ出のひとゝき

講談

大和田醫院

廣告

内外建築材建具材
磐城國平町（公園下）
入　阿部材木店
阿部好利（改メ文章）
電話四九四番

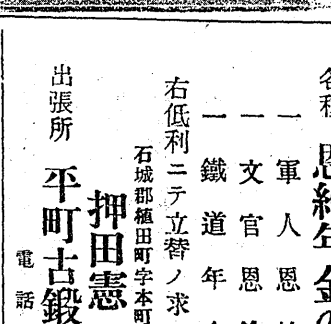
日曜祭日翌日休刊
三月二十六日發行
定價一ケ月金六拾錢（郵税共）
廣告（一段一回金六拾錢）
（二段一回金壹圓）
（三段一回金壹圓五拾錢）
（四段一回金貳圓）
（五段一回金貳圓五拾錢）
（六段一回金參圓）
（七段一回金參圓五拾錢）
（八段一回金四圓）
（九段一回金四圓五拾錢）
（十段一回金五圓）
（十一段一回金五圓五拾錢）
（十二段一回金六圓）
（十三段一回金六圓五拾錢）
（十四段一回金七圓）
（十五段一回金七圓五拾錢）
（十六段一回金八圓）
（十七段一回金八圓五拾錢）
（十八段一回金九圓）
（十九段一回金九圓五拾錢）
（二十段一回金十圓）
（二十一段一回金十圓五拾錢）
（二十二段一回金十一圓）
（二十三段一回金十一圓五拾錢）
（二十四段一回金十二圓）
（二十五段一回金十二圓五拾錢）
（二十六段一回金十三圓）
（二十七段一回金十三圓五拾錢）
（二十八段一回金十四圓）
（二十九段一回金十四圓五拾錢）
（三十段一回金十五圓）
（三十一段一回金十五圓五拾錢）
（三十二段一回金十六圓）
（三十三段一回金十六圓五拾錢）
（三十四段一回金十七圓）
（三十五段一回金十七圓五拾錢）
（三十六段一回金十八圓）
（三十七段一回金十八圓五拾錢）
（三十八段一回金十九圓）
（三十九段一回金十九圓五拾錢）
（四十段一回金二十圓）

内外建築材建具材
磐城國平町（公園下）
入　阿部材木店
阿部好利（改メ文章）
電話四九四番

諸判定施需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館
▲一白　同情の念加はりて薬籤も優良の結果を呈す▲二黒　全力を盡してまい進せられば目的を達成す▲三碧　進まんとするもおさえらるゝ事情起るべき日▲四緑　日ごろ高き宿を求めよ先を急げば暗に迷ふ▲五黄　人を疑ほず意見を許容して之に從ふがよし▲六白　他より見捨てられぬ縁意實を盡して幸あり▲七赤　一事に事を企て他は乘ぜられぬ用心が第一▲八白　地位の向上利じゅんの獲得を見るべき大幸運日▲九紫　くよ〳〵物を案ずるうつ氣を散じて時を待て彷徨しなければならない

舊三月廿日　金曜　新三月廿二日
戊申　先勝　五黄
執　鬼宿

日出　五、三二　月出前　七、五六
日没　五、五四　月没後一〇、五三
満潮前五、二〇　干潮後　〇、四〇
後七、二五



二十七日
（小名濱湖鮫所調査）

大和田醫院

廣告

黄金魔刀

（109）

高桑義生作
樋口悦也畫

紫巾黨（六）

石部から水口の城下へは三里の道、途中に三雲の宿がある

わざと本街道を避けて三雲の山道を水口に下りる旅人一人、うら若い女、菅笠の紅緒が、なまめかしくもあれば痛々しくも見えるので

先の宿からつけて來たのだらう、旅にはつきもの惡怨籠屋、から怨籠をゆさぶりながら、潮時を見はからつて追ひすがつた

『おう、ねえちやん』

『ねねや……』

かたみに呼びかけたが旅の娘は聞えないふりで——しかし、さすが小氣味の惡い浮足になる

冬の日脚の短かさ、七つにはまだ間もあらうといふのに、どんより曇つた時雨空、今にも暮れるかと思ふ心細さ

『ねえや、聞こえねねのかねねやつたら、ねえや、まあちよつと待つて見るものだ、話は聞いて見るものだ！』

『さつ、駄賃なんぞはどうでもいゝ。袖すり合ふも他生の緣とやらだ』

『でも……』

と娘は觀念したらしく

『駄賃は差上げます。よいりとする寬之助——彼が江戸に行くといふ言葉をあてにはるゝと志した、人生への航海の第一歩であつたお染は心に神佛を念じてゐる。惡者は、思ひがけなの物を拾値にして、半甲脚絆菅笠、一人前の旅姿、無事にここまでは來たのではあつたが——

この世の中にたゞ一つ頼賃冥利から怨籠をゆさぶつて歸るより、あんたのやうな別嬪をお乘せ申して行きてもござゐますまいやと思ふのでございます——

聲にすぐ耳元で——

毒氣をかけられたやうになくも怨籠の中。そのなめ玉を、なぐさんだ上、金に

旅の娘は身ぶるひをした立らかな襟脚をのぞき込んでしようといふ魂膽、間違ひ

身内をぞく〳〵させた怨籠なしだ

屋二人、にやりと顏を見合せて怨籠を上げた

怨籠の中の處女、深窓から人生への荒浪に漂ひ出たお染であつた。身ひとつで稻荷山の別莊をのがれて、

『おツと合點、仰しやるまでもござゐますまいや』

すばやく怨籠をおろす——

娘は笠も取らずに、是非〳〵掌の中にころげ込んだ上

『てゝゝゝ……つんぼぢやあるめえし、何も取つて食はでもいゝ。袖すり合ふも他生の緣とやらだ』

『でも……』

と娘は觀念したらしく

『駄賃は差上げます。よいりとする寬之助——彼が江戸に行くといふ言葉をあてにはるゝと志した、人生への航海の第一歩であつたお染は心に神佛を念じてゐる。惡者は、思ひがけなの物を拾値にして、半甲脚絆菅笠、一人前の旅姿、無事にここまでは來たのではあつたが——

この世の中にたゞ一つ頼賃冥利から怨籠をゆさぶつて歸るより、あんたのやうな別嬪をお乘せ申して行きてもござゐますまいやと思ふのでございます——

聲にすぐ耳元で——

毒氣をかけられたやうになくも怨籠の中。そのなめ玉を、なぐさんだ上、金に

旅の娘は身ぶるひをした立らかな襟脚をのぞき込んでしようといふ魂膽、間違ひ

身内をぞく〳〵させた怨籠なしだ

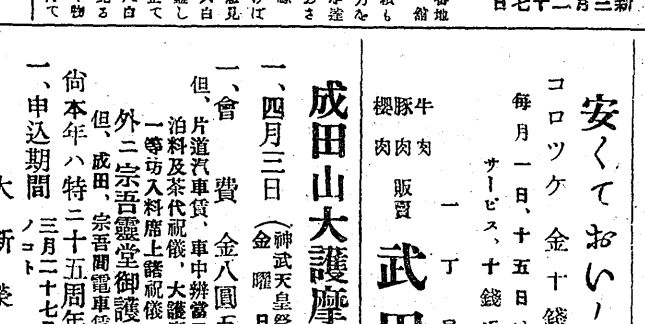
屋二人、にやりと顏を見合せて怨籠を上げた

怨籠の中の處女、深窓から人生への荒浪に漂ひ出たお染であつた。身ひとつで稻荷山の別莊をのがれて、

『おツと合點、仰しやるまでもござゐますまいや』

すばやく怨籠をおろす——

娘は笠も取らずに、是非〳〵掌の中にころげ込んだ上



かごには乘つて見るものまそれから東へ——江戸にむかめ、だらけの足を曳き摺つつて一人旅、思ひ切つた事て俺あもうずんとお痛はしであつた。路銀は多分頭髮くてならねえのさ』

『結構です』

『ほツ、見かけに寄らねわ強情な娘さんだ。尤もその年で一人旅、なか〳〵氣強い御氣性らしいが、いけませんせ。御存じねえだらうが、水口の御城下はきびしい、女の一人旅は何處の宿でも、決して泊めねわ事になつてゐる。詮議を受けるのは必定なんだ』

『それが、俺達土地の者が口をきいてやれば、そこはまた何とでも融通がきく。悪い事はいひません。人の親切を無にするものぢやねえ』

旅の娘は振り返つた

人びと

ふぼし生

強い人間は幸福だ
何故ならば　彼には
如何なる困難も迫害も打
破つて
雄々しく人生の荒浪を
乘越えて行く
勇氣と意志を持つて居る
から
弱い人間も亦幸福だ
自分の弱さを自覺して
強いて無理な事を望まず
忍從の世界の身に甘んじて
安泰な生活を送る事が出
來るから

傷心

吉川尙子

○寢ながら飛行機のばく音ききをれば赤き信號燈は目のうちに見ゆ
○來客の商賣談に壹食さへ忘れて時計は二時を過ぎたり
○去年植ゑし庭の松樹の枯れにけり心にかけし姉にいまさず
○年かへて別れたる日はめぐれどもこほしき父にあふよしもなき
○面ざしのまさしく似たる人にあひて父こほしさに涙こぼしぬ

講談

大和田醫院

廣告

内外建築材建具材
磐城國平町（公園下）
入　阿部材木店
阿部好利（改メ文章）
電話四九四番

二十七日
（小名濱湖鮫所調査）

大和田醫院

廣告

タイプライター 印字機十四台を据へ 平局の電報陣營整備

手書きから讀み易い印刷に改正

來月一日から實施

平局では豫てより區内居住者へのサービスとして同局で配達する電報を『タイプライター』で印刷することに計畫中であつたが愈々來月一日より之を實現することになり此度スミス式電信用和文タイプライター拾四臺、田中式電機モーター付電報複寫機貳臺を送付して來たので萬遺漏のない樣に準備中である、これに依つて電報は手書から一轉してタイプライター印刷になる爲從つて能率の向上となり電報の速達を期しまた文字が明瞭になり電報が非常に讀み易くなる事である、電報の送達紙も亦從來のものからタイプライター用のものと變る筈であるが同送達紙はタイプライターの性質上紙面に名宛、指定等の標示が印刷してないので一寸間誤つくかも知れぬから次の事項を知る必要がある

名宛、指定、本文等の欄する調査委員會は昨報の如は從來のと大體同じ位置にあるので標示が無くも間違へる樣なことはないが郵便局で云ふ額表と云ふ欄、つまり發信局や受付時間等郵便局側で記載する事項の欄が從來のは本文の上に順に右から左に配列してあつたが今度は用紙の右端に何等の標示なしに上から下に記載される、その順序は電報種類（通常私報の時は記事の次に發信局名、發信局の受付時分が記載される）本文及指定の字數『發信局名、發信局番號、發信局の受付時分』となる、その心算で讀めばよろしい、尚左端最下部には着信した時の時分が記載される

商品擔保貸付 開始

俸給生活者には小口融通

七十七銀行の倉庫竣工

七十七銀行本支店では商品擔保貸付の爲豫て商品倉庫に對し低利金融を開始し一般商人の便利を計る外中小城屋跡）銀行專屬倉庫（土藏三棟七十餘坪）の工事が竣功したので愈々來月一日から準備中である

七十七銀行本支店では商品より米雜穀を初め各種商品倉庫に對し低利金融を開始し一般商人の便利を計る外中小城屋跡）銀行專屬倉庫（土藏三棟七十餘坪）の工事が竣功したので愈々來月一日から準備中である

磐崎村に忠魂碑

總工費千三百圓を投じ

今秋九月竣功

磐崎村在鄉軍人分會では日淸、日露の戰役並に滿洲事變戰歿者の英靈を讃ねる忠魂碑を建立する計畫をたてゐたが愈々總工費一千三百圓を投じ來月十日頃着工今秋九月の滿洲事變記念日迄に竣功する事となつた碑は底面一丈五尺角、高さ二丈一尺、平町松ケ岡公園の忠魂碑に模した總御影石、建立敷地に龍勝寺境内若くは小學校庭の設定

關田校新築

きのふ落成式擧行

勿來町關田小學校は工費二萬二千四百圓を投じ過般來

工業組合 設立

近く縣に認可申請

平町工業關係當閭で工業組合を設立する事となり二十三日縣當局に發起届を提出來月十日頃創立總會を開き定款制定、役員選擧を行つた上縣に認可申請する加盟非五名、一口二十圓出資約三百口を募集、事業は材料原料の共同購入價格の統制、資金貸付、貯金受入、營業の調査研究指導、その他共同施設の完備等である

鮫川工事の促進

けふ更に對策協議

近く出縣陳情か

十年度は桑然工事を施工せす延び〳〵になつてゐる鮫川疏水繼續工事促進を協議に就任、これによつて同閘慎重協議を重ねるため今二十四日午後から平岡体なり二十五日關田警察部長が同園長事務所に開いたが繼らず尚土屋衛生課長か同園を視察三菱よりの事業資金一千五百圓によつて維持されてゐる鹿島村、同箕輪村の診療所の視察も行つた

關田警察部長

豐間回春園と

診療所視察

豐間村の結核療養所縣立同春園々長は昨年八月金親同

鐵道納炭値上げ

噸當り二十五錢

昨日正式に契約

鐵道省では十一年度所要石炭三百九十萬トンの購入にて當業者の態度頗る强硬のつき過般來昭和石炭、筑豐互助會をはじめ各當業者と納入契約の交渉をすゝめつゝあつたが本年は炭坑地方における災害による採炭量の減少と軍需インフレによつて

る需要增加のため貯量拂少

春にそむいた

―名物石城の空つ風（かぜ）―

今晩も警戒を要します

――今晩に入ると北西の風は一層强くなる模樣だがあすは幾分弱りもせう今晩はお互警戒を要します

野邊の若草も萠え出て公園の櫻の蕾もメッキリ膨んだと云ふのに石城地方は今朝來北まくりの風が相當强く流石に『名物石城の空つ風』を思はせた、本町通りには數ケ所看板を吹き飛ばされて番頭君は吹きまくる風に『春風の惡戲』を見つめてゐる男山崎忠三氏は工學博士櫻井省三氏夫婦の媒酌により元海軍次官軍事參議官海軍大將山梨勝之進氏次女文子嬢と婚約整ひ來月九日東京市會館に於て披露の宴を張る

花下の飲み食ひ安心

露天商人の健康診斷其他

縣で一齊に取締勵行

花見時になると種々な質店が現れ怪しげな飲食物が販賣されその結果患はぬ病氣に取りつかれるやうな例は少くないので縣下各署では毎年自發的にこれが取締を適當に行つてゐたが、右取締は全面的な必要性を持つてゐるので縣衛生課では本年からは縣の名に於て全縣下殊に花場所等に對し一齊强制的にこれが取締を執行する事になつたがその期間は來る四月十日から五月十五日迄とし、その方法は花見會は今年もトップを切つて來月十日午後五時から谷

觀櫻會の魁

平町日（三）と云ひ去月中同工場に

主家の品を盜み

悔悟男平署に自首

今曉三時頃平署に『自分は雇はれ中木綿糸（價格三百圓）を攝つ拂つて逃げた男があつた、右は走各地を歩いてゐる中金も一所有染色工場雇人同縣酒悔みかくと訴へ出たもの下名郡豐西村生れ羽淵俊治ある

花◇の◇衝◇立

旅情を慰める躑躅移植

來月五日頃には完成

櫻に次いで艶麗を競ふ松ケつたが愈々具体化し目下公岡の躑躅の美を鐵道沿線の園藝設當時の功勞者たる才傾斜面に移植する計劃は平槌小路眞木隆四郎氏の手に中堅として囑望されてゐた梅原佐喜華氏結婚の送別を兼ね盛會を豫想されてゐる番組左の如し

1『君が代』鈴木都、佐々木笑子　渡邊澄子外　2童曲『她松、花くらべ、櫻』塚本けい子　渡邊常子　武田よし子　阿部翠外　3『新高砂』鈴木佐喜勇、植村千枝子外　4『菊水』黒澤不二外　5『八千代獅子』梅原道子　平松ヨシ子外／6『六段』大越久仁子　青天目照子外　7『四季の遊』鈴木佐喜勇　織田芳枝外　8箏曲『せきれい、ひばり』梅原佐喜華　松繁八重子　小山田禮子外　9『末のちぎり』黒澤不二　國井正外　10『鼬月』平松ヨシ子　梅原佐喜華外　11『明治松竹梅』生天目幸子　戸來綾子外　12童曲『螢、お琴』平松和子　渡邊常子　根本信子外　13『里の曉』梅原道子　仮高嶋童外　14『六段』鈴木ヨシエ　黒澤不二外　15『茶の湯音頭』織田芳枝　小村與志郎外　16『まゝの川』梅原佐喜華　鈴木佐喜勇外　17『竹生島』鈴木佐喜勇　黒澤不二外　18『若菜』鈴木佐喜勇　塚本素童外

鈴木佐喜勇社中 喜の華會 三曲演奏會

廿八日マルトモに開催

平町鈴木佐喜勇社中の喜の華會第八回三曲演奏會は明後二十八日（土曜）午後五時から四丁目マルトモホールで同社中後援曙風會並に入仁子、青天目照子外7『四季の遊』鈴木佐喜勇　織田芳枝外　8箏曲『せきれい、ひばり』梅原佐喜華　松繁八重子　小山田禮子外　9『末のちぎり』黒澤不二　國井正外　10『鼬月』平松ヨシ子　梅原佐喜華外　11『明治松竹梅』生天目幸子　戸來綾子外　12童曲『螢、お琴』平松和子　渡邊常子　根本信子外　13『里の曉』梅原道子　仮高嶋童外　14『六段』鈴木ヨシエ　黒澤不二外　15『茶の湯音頭』織田芳枝　小村與志郎外　16『まゝの川』梅原佐喜華　鈴木佐喜勇外　17『竹生島』鈴木佐喜勇　黒澤不二外　18『若菜』鈴木佐喜勇　塚本素童外

晴やかに笑む

三小學校受賞兒童

第一校進歩賞（寫眞）

川文雄（三ノ三）市島德三　高倉昭一　草野英一（四ノ一）岡島喜明、木田德雄　鈴木良一　比佐榮（高一ノ一）志賀啓佑　館次雄　菊池一雄　大島大三（一ノ二）門馬公一　薄藤正　鈴木武　井幡勇（二ノ一）鈴木正雄　鈴木敏雄　西郡國人（二ノ二）田中正士　吉田吉造　衛（五ノ二）永山昌平　木田茂三郎　田中三郎（五ノ三）廣木亨　遠藤保男　松本四郎　川上忠（六ノ一）小田純也　渡邊陽一　佐々木修（六ノ二）若松譽彦　綿引史郎　海老根鐵也（六ノ三）深澤マサヱ、齊藤和子（二ノ二）佐藤みよ子　宇田川セイ子　根本ナカ（二ノ三）赤坂和子　鈴木マサ　大形芳子（第三教育部會賞）

第二校進歩賞（四寫眞）

尊卒―寺門武彦　野澤登記　枝

（敎育部會賞）

尊卒―三井眞一　正水秀夫　亀山正邦

高卒―藥谷公義　富田正一郎

（宅櫻關御刊行會長賞）

高卒―田中忠太郎　金成忠美

第二校進歩賞（四ノ一）吉田昌江　馬上章子　相澤ぜい子（四ノ二）殿塚むつ子　堀久榮子　野木愛子（四ノ三）渡邊ヒサ子　鈴木千代　菅本よし子

（六ノ一）八田トミ　喜代　志賀恭子（六ノ二）大島キミ子　大和田千代子　根岸繁子（六ノ三）高橋マサノ　夫野文子（六ノ四）柴田一　明智將次（三ノ二）永山孝雄　篠原忠男　相

（三ノ一）柏原本八　栗田孝（三ノ二）神長倉利秋　大谷宣子　大河内靜子　折笠秀子　河原君子　武田キヨ子　高木萬枝　田島イサ　關部フミ　永島俊子　梅津とき子　野内美代　國分喜代子　遠藤テル　遠藤靜枝　阿部春枝　佐藤豐子　佐藤輝子　三井久子　柴田圭子　鈴木慶子　白土初枝（裁縫專修科）芳賀初代　星野キヌ　本田增子　都甲榮子　大平ヤイ子　小平フヂ子　渡邊かの　金成カネヨ　金成モト　鎌倉律子　吉田孝枝　吉村富枝　高萩チカ　高木キクノ　高萩スギ　根本江子　永井アイ子　宗像アイ　植田トク子　矢内ミシ　山田マサ　山野邊三智子　小林景子　吉茂田靜子　遠藤富美子　赤塚テル子　阿部キヨ　齊藤ミサオ　佐藤チヨ　佐藤マサ子　佐藤愛子　酒井八重　坂本ヒサ子　木田カネ　水野谷イヱ　柴崎光江　篠崎サク　日置三子　平澤多嘉子　鈴木トク子　鈴木寫眞子　鈴木ヤイ　鈴木マツヱ　薄葉キノ　宇南山正子　草野久子　松崎美智子　國府田時子　阿地の子　木田ヤイ子　篠崎ツメノ　篠澤幸子　關原光江

（敎育部會賞）

三小學校受賞兒童

第二校級擔任

平第二校新學年學級擔任配當は左の如く決定した

尋一―一組志賀ナカ　二組甘南備タマ　三組大和田キヨ　尋二―一組先崎清　二組佐竹ヒテ　尋三―一組松本清美　三組仲村操　三組古市克惠　尋四―一組熊谷保喜　二組草野光司　三組松本政喜　尋五―一組渡邊啓二　二組清野兵衛　三組海野磐男　尋六―一組鈴木寛　二組高畑正次郎　三組木本貢　高一―一組常陸繁之助　二組橋本正雄　三組蛭田イサ　高二―一組海老原英　二組鈴木武雄　三組千葉とし

小學級擔任

川前村凶作防止座談會　川前村凶作防止對策耕種改善座談會は二十五日小白井分教場、二十六日高野區長宅に開いたが講師は郡農會會山技手並に水名町農會豫算　小名濱縣山林課齊木技手

社員採用

固定給參拾圓外手當支給

二十才以上五十五才迄

希望者は履歴書持參本人來談

平町鍛冶町十八

公社債券　現物賣買　擔保貸附

日本商事株式會社平支部

大至急 會員募集

年齢、學歴を問はず堅實なる婦人を望む

平町紺屋町

上原家政婦會

電話二二番

藤田卒業生

おす證書妙奥式

（本科）石井ヤス子　新妻ヨシエ　大谷キヨエ　大谷宣子　大河内靜子　折

夜間診療

三内科　腸胃病科　專門

花柳病科　性病科

皮膚科

（見習看護婦募集）

松村醫院

（平町南町百一〇十番）

流行ノ下駄ト草履！

ドコヨリ安イ

南町　三井ハキモノ店

電話一八一番

（小僧さん入用）